



共有する

タブレットを使うと、すぐに情報を共有したり、わかりやすく発表したりすることができます。
ここでは、上手な情報の共有の仕方や発表へのフィードバックの仕方、グループチャットでのトラブルの対応などについて学びます。

最初にチェックしてみよう

- 私は、情報の性質によって情報共有の仕方を工夫することができると思う
- 私は、「批判」と「非難」がどのように違うかを知っていると思う
- 私は、グループチャットでの悪口を止めることができると思う

情報を共有する際に意識したいのが、ストック情報とフロー情報です。

ストック情報とは、後から何度も活用する「蓄積して活用する情報」のことで、フロー情報とは、その場限りで共有する「瞬間的に活用する情報」のことで。

次の情報をストック情報とフロー情報に分けてみましょう。

- 1 これまで調べた資料
- 2 先程、先生に言われた発表場所の変更に関する情報
- 3 パッと思いついたアイデア
- 4 調査の参考となるURL
- 5 今日の部活の時間の変更を伝える情報

ストック情報 **A**

B フロー情報

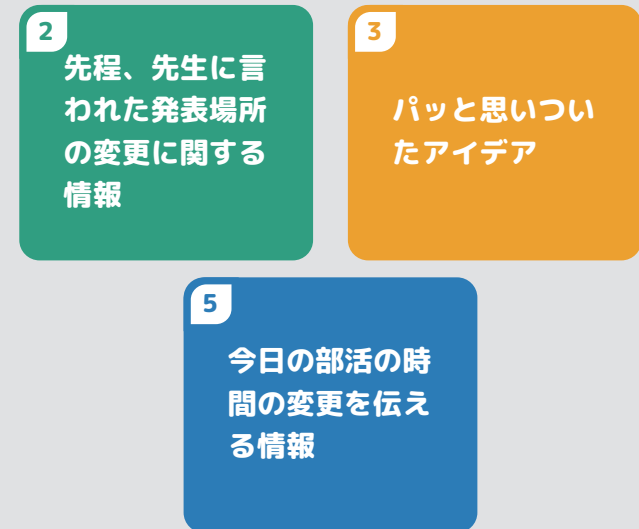


正解

ストック情報 **A**



B フロー情報



 スキルのポイント

情報を共有する場合、すぐに知らせたいというフロー情報は、チャットなどを使うとすぐに共有することができます。しかし、チャットだけでいろいろな情報をやりとりしてしまうと、情報量が多くなり、後から大切な情報を探すということになりがちです。

そこで、これまで調べた資料や参考となるURLなどのストック情報（蓄積して活用する情報）は、チャットとは別の場所に保存しておく、あとで見返したい時に便利です。（例えば、LINEの場合は、「ノート」という機能を使うと便利です）

批判と非難はどう違う？

クラスの友達の発表を聞いたり、ネット上で誰かの意見を見たりした際に、自分の意見をコメントすることがあります。しかし、そのコメントが、「批判」となるのか、「非難」となるのかには違いがあります。批判と非難の違いを考えながら、次のコメントを批判と非難に分けてみましょう。

1

発表がつまらなかった

2

声が小さいので、もっと大きな声で発表してほしい

3

提案内容と先行事例との差がわかりにくかった

4

もっとよく考えた方がよいと思う

5

よくない発表だった

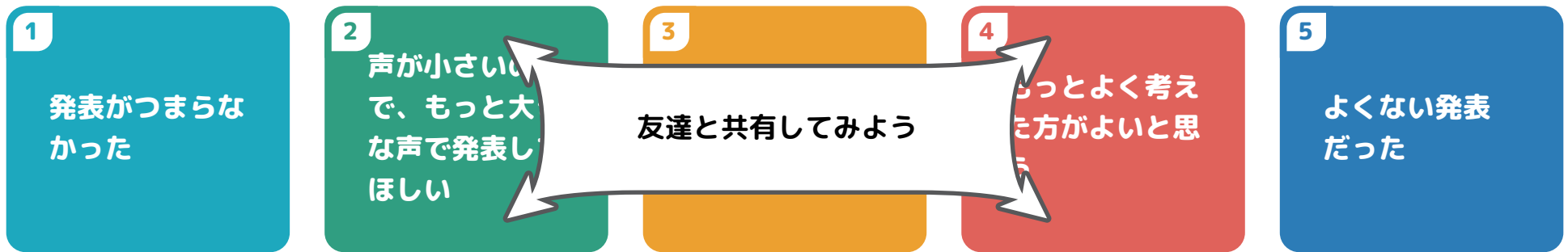
批判

A

B

非難





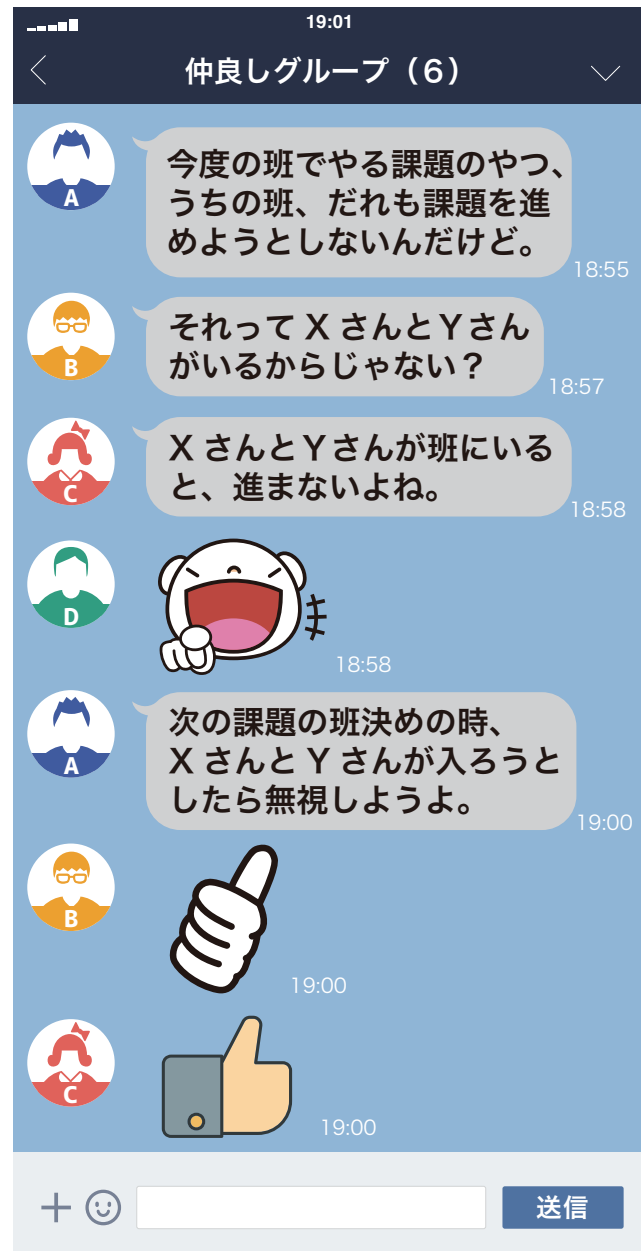
★ スキルのポイント

批判とは「物事の良し悪しをよく調べたり考えたりして判定すること」であり、そこには問題点の指摘や改善へのアドバイスなども含まれます。

一方、非難とは「悪い点を責め立てること」であり、批判に比べると改善につなげにくくなります。

もちろん、誰かの発表や意見に対して自由に自分の意見を言うことは、「表現の自由」として保障されています。しかし、その意見が単なる非難に終わらずに、きちんと批判することで、批判された側も次の改善につなげることができます。

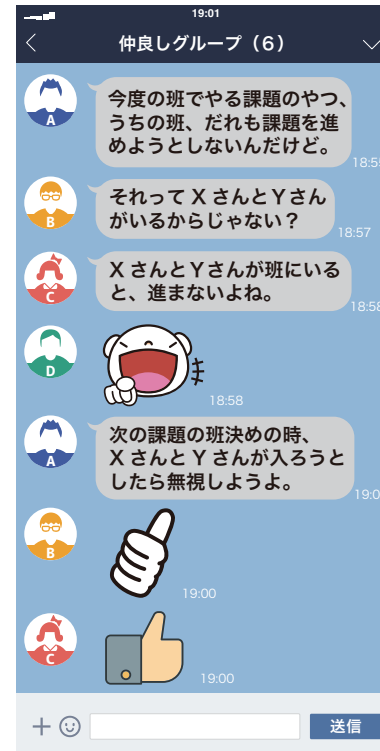




あなたが入っているクラスの仲良しグループのチャットで、あなたが仲の良いXさんとYさんに関する悪口が書かれています。
あなたは、どのように対応しますか。



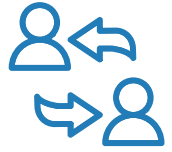
友達と共有してみよう



★ スキルのポイント

自分が悪口を言わないようにしていても、グループチャットで友達が悪口を言い始めると、それに同調を求められる場合もあります。「関わらない」「無視をする」という方法もありますが、チャットの場合、「無視をする」（反論しない）ことが「同意」と捉えられる可能性があるので注意が必要です。

もちろん、そのチャットだけですべてを解決する必要はありません。まだコメントを書いていない仲良しグループの友達、それ以外の友達、学校の先生、保護者の方などに関わりながら、チャットだけで対応を考えるのではなく、対面を含めてどのように対応するかを考えてみましょう。



共有する

まとめ

よき使い手になるために

情報を共有する場合には、相手のことを意識する必要があります。

ストック情報（蓄積して活用する情報）とフロー情報（瞬間的に活用する情報）を意識して相手がわかりやすいように情報の共有を工夫したり、相手が改善できるようにフィードバックを工夫したりしてみましょう。

チェックしてみよう

- 私は、情報の性質によって情報共有の仕方を工夫することができる
- 私は、「批判」と「非難」がどのように違うかを説明することができる
- 私は、グループチャットでの悪口を止めることができる



タブレットを使うことにより、文字を目で見る、音声を耳で聞くことで情報を相手と共有できます。

これからの社会では、それを含めた五感（目で見る・耳で聞く・口で味わう・鼻でかぐ・手で触る）を相手と共有することができるかもしれません。

調べてみよう

五感のうち「口で味わう・鼻でかぐ・手で触る」を共有するサービスにはどのようなモノがあるだろうか？

話し合ってみよう

五感を共有できるようになると、どのような社会問題を解決できる可能性があるだろうか？